



ひらりんちゃん通信 (園長室だより)

令和7年5月21日
文京区立千駄木幼稚園
園長 篠澤 恵理

千駄木幼稚園のマスコット「ひらりんちゃん」は、幼稚園のイチヨウの枝からひらひらと舞い降りて、そっと子どもたちを見守っているようなイメージだと感じています。私も、子どもの世界にひらりと舞い降りて、素敵な出来事を見付けてお知らせしたいと考え、園長室だより「ひらりんちゃん通信」を引き継ぎました。子どもたちの様子から感じたことや、自分自身の子育てを振り返って思うことなどをお届けします。

親子のふれあい

毎日の園庭開放では、自分の好きな場所で過ごしたり、興味や関心があることを繰り返したりする姿がありました。一輪車に挑戦している子が、友達の保護者に手伝ってもらった場面もありました。どの子も我が子と同じように心を向けてくださる保護者の皆様の様子は、素敵だなと感じています。

先日の年長組の親子ふれあいデーでは、一緒に踊ったり新聞紙を使って遊んだりしました。保護者の皆さんは、子どもとの遊びを面白がって参加してくださり、子どもたちはとても嬉しそうでした。たくさんの感想もいただきまして、ありがとうございました。いくつか紹介します。

- ・親子で一緒に体を動かす喜びを実感でき、絆が深まる貴重な機会となりました。
- ・手や足を使った動きが取り入れられていて、家でも試してみようと思いました。
- ・日々の保育の中で、話を聞いていましたので、実際に体験することができ、子どもと同じ気持ちになって楽しみ、久しぶりにじんわり汗をかきました。

子どものことを愛おしく見つめる温かいまなざしは、親の愛情として子どもたちにしっかりと伝わっていることでしょう。これからも幼稚園では、「子どもと一緒に幼稚園に通って楽しい。」と、保護者の方々が実感できるように、親子で共に歩む体験を計画し、親子で過ごすかけがえのない時間を積み重ねてまいります。

数分の積み重ね

我が家の息子たちが幼少のころ、毎日のように寝る前に楽しんだダンスがありました。「アルプスいちまんじゃく」の曲に合わせて、「前でパチンと（相手と手を合わせ）後ろでポーズ（一步下がってポーズ）ぐるりと回ってジャンケンポン」と歌い、最後はジャンケンで勝った人が相手をくすぐるというものです。ダンスというよりは、じゃれ合い遊びのような感じでした。何度も繰り返すうちに、ポーズは、なるべく面白い表情や動きをして笑わせ合うようになっていきました。時間にしたら5分程度のやり取りなのですが、今思い出してもその時の情景が目につくほど、楽しいひとときでした。平日に子どもたちと遊ぶ時間がなかなか取れないでいたので、せめてもと、この数分を全力で遊んだことを、この曲を聴くたびに思い出します。今思えば、子どもの相手をしてあげているようで、実は子どもたちに遊んでもらっていたのかもしれない。数分の積み重ねでしたが、心に残る思い出をプレゼントしてもらえたと思います。遊んであげなくても、話を聞いてみたり、一緒に家事をしたりするのも楽しいですね。これからも、子育ての楽しさを見付けていきましょう。